

WLAC REPORT 2017

World Liberal Arts Center Report



名古屋外国語大学
ワールドリベラルアーツセンター長
亀山 郁夫 (学長)

巻頭言

名古屋外国語大学は、学術研究の深化、教養教育の質の向上、情報発信力の強化等に資するため、全学的な研究組織として2015年4月1日付でワールドリベラルアーツセンター（World Liberal Arts Center：WLAC）を発足させました。現在、その3年目の活動を終えようとしています。

本センターは、日本を含む世界諸地域の言語、文化、芸術、教育、社会、政治等に関わる種々の問題系を発掘し、総合的かつ複合的視点からこれを研究・調査するとともに、21世紀グローバル化時代に真にふさわしい教養教育の理念構築に寄与することを目的とするもので、その設置の趣旨については、本学のアクションプラン（NUFS Next）においても、中部地区をリードする高等教育拠点としての体制の確立（教員の教育力の向上と研究環境の整備）の一環として位置付けられています。

本センターはこれまで、2015年6月に開催した発足記念イベント「朗読と音楽による『カラマーズフの兄弟』」を皮切りに、過去3年間に、約50件の講演会やシンポジウムなどを開催し、学内及び地域に貢献してきました

また、本センターでは、活動の一環として、雑誌 Artes MUNDI（アルテス・ムンディ）を発行しています。この雑誌は、学内においては教員のフォーラムとしての性格を持たせ、同時に、広く学外に向けて学術成果を発信する媒体として、毎年1回の刊行を予定しています。

以上、3年間の活動実績を踏まえ、本センターの更なる充実を図るために、このたび、活動報告書「WLAC REPORT」を発行することといたしました。ご一読いただけましたら幸いです。

2018年3月

2017年度 活動一覽

講演会 2017年5月18日(木)

ポスト・エグゾティスムにおける物語の転覆

アントワヌ・ヴォロディエヌ (フランス人作家)

フランス語学科主催
WLAC 共催



シンポジウム 2017年5月19日(金)

新しい外国語大学への挑戦：地域から入り世界につながる国際教養教育

溝畑 宏 (前観光庁長官、大阪環境局理事長)
上田 健作 (高知大学地域協働学部学部長・教授)
大槻 知史 (高知大学地域協働学部准教授)
石原 正敬 (三重県孤野町長)
鈴木 孝美 (長久手市副市長)
福井 佳代 (名鉄観光サービス株式会社)

国際教養学科主催
WLAC 共催



WLAC Students 講座 2017年5月20日(土)

発信力を身につけるための文章講座

川上 泰徳 (元朝日新聞記者)

WLAC 主催

講演会 2017年6月15日(木)

The Field of Sound (ザ・フィールド・オブ・サウンド) —カナダ女性作家マドレーヌ・ティエン氏による講演会—

マドレーヌ・ティエン (カナダ人作家)
佐藤 アヤ子 (明治学院大学特命教授・日本カナダ文学会会長)

現代国際学部主催
WLAC 共催



討論会 2017年6月17日(土)

第三回 日中大学生討論会

東京外国語大学、愛知県立大学、愛知大学、名古屋外国語大学、名古屋大学、大連大学 (2名)、天津外国語大学 計学生 8名

コメンテーター：

高瀬 淳一 (世界共生学部 学部長)
真家 陽一 (中国語学科 教授)

コーディネーター：

川村 範行 (外国語学部特任教授)

名古屋外国語大学、WLAC、中国語学科 主催
中日新聞社 共催

東海日中関係学会、日中文化協会、愛知華僑華人総会、中国駐名古屋総領事館 後援



講演会 2017年6月27日(火)

The WWII Japanese American Experience: A Kibei Story (日系アメリカ人の第二次世界大戦の経験：帰米の物語)

サツキ・イナ (カリフォルニア州立大学サクラメント校名誉教授・心理療法士)

英米語学科主催
WLAC 共催



コンサート 2017年6月28日(水)

Glenn M. Ray Special Concert in NUFS

グレン M. レイ (歌手・サクソフォーン奏者)

世界教養学科主催
WLAC 共催



上映会・対談 2017年7月5日(水)

映画を読む

—ビクトル・エリセの詩学を語る—

仙頭 武則 (名古屋学芸大学映像メディア学科教授)
野谷 文昭 (名古屋外国語大学世界教養学科教授)

WLAC 主催
名古屋外国語大学・名古屋学芸大学図書館共催



コンサート 2017年10月4日、10月18日、11月1日、11月15日、11月29日、12月13日(隔週水曜 全6回)

ランチタイム・ピアノコンサート

匂坂実佳、児玉真子、渡辺理紗子、寺腰千紗、近藤聡美、福田真弓
(愛知県立芸術大学音楽学部ピアノ専攻学生)

WLAC 主催



講演 2017年10月6日(金)

シェイクスピア "Twelfth Night" 公演

ホワイトホースシアター (移動劇団)

WLAC 主催



講演会 2017年10月11日(水)

混合体としての〈アメリカス〉へ —『ハーフ・ブリード』刊行に寄せて

今福 龍太 (東京外国語大学大学院教授)

世界教養学科主催
WLAC 共催



講演会 2017年11月1日(水)

『ボージャングルを待ちながら』 —究極の愛と風変わりな家族—

オリビエ・ブルドー (フランス人作家)

フランス語学科主催
WLAC 共催



写真展示・講演 2017年11月2日(木) (1日~8日写真展)

イガイなイラク

安江 墨 (フリー写真家 / アラ・英広告翻訳者)

WLAC 主催



討論会 2017年11月8日(水)

アイルランドの今 —社会、文化、新しい文学

マリヤ・オールストロム (スウェーデン・ウプサラ大学 講師)

WLAC 主催



講演会・ワークショップ 2017年11月9日(木)

世界をめぐる知的冒険への旅 Vol.5 言語と文化を通じた社会の融合：ニューカマーの受け入れ

マリヤ・オールストロム (スウェーデン・ウプサラ大学 講師)

WLAC 主催

2017年度 活動一覧

講演会・コンサート 2017年11月16日(木)

世界の食を旅する アフリカ研究の第一人者が語るアフリカの食

島田 周平 (世界共生学科教授)

WLAC 主催



講演会 2017年11月25日(土)

津田仙・初・梅子を語る 近代日本グローバル人材の先駆けとなったファミリー

津田守 (現代英語学科教授)

WLAC 主催



講演会 2017年12月11日(月)

先住民族としてのアイヌの文化と権利

山崎 幸治 (北海道大学アイヌ・先住民族研究センター准教授)
阿部 千里 (アイヌ先住民電影社代表)

世界共生学科主催

WLAC 共催



発表会 2017年12月16日(土)

JACET オーラルコミュニケーションフェスティバル

文教大学、仙台青葉学院短期大学、
鶴見大学、神戸市外国語大学、東京工芸大学、
南山大学、同志社女子大学、名古屋外国語大学

WLAC 主催

現代英語学科共催



講演会・コンサート 2018年1月27日(土)

村上春樹とカズオ・イシグロ その世界性、読解の可能性をめぐって

清水 良典 (愛知淑徳大学教授)
鴻巣友季子 (批評家)
尾崎 有飛 (ピアニスト、昭和音楽大学助教)

WLAC 主催

日本ドストエフスキー協会共催



講演会 2018年3月26日(月)

中国の日本語教育の現状及び通訳・同時通訳の養成について —中日友好交流の視座より—

宋 協毅 (ソウ キョウキ) (大連大学副学長、日本語言文化学院長)

日本語学科主催

WLAC、愛知華僑華人総会共催



TOPICS

10月4日～12月13日 「ランチタイム・ピアノコンサート」を開催しました

2017年10月4日（水）から12月13日（水）までの隔週水曜日、12：30～13：00の30分間、本学コミュニケーションプラザ1階において、ミューズの午後 愛知県立芸術大学 学生によるランチタイム・ピアノコンサート ～全6回～を開催しました。お昼休みの大学で、気軽にピアノ演奏が聴けるということで、本学の学生の皆さんはもちろん、学外からも多くの方にご参加いただきました。



開催のご報告

10月4日 匂坂 実佳さん



第7回東京ピアノコンクール大学部門第2位。ロゼピアノコンクール2016第3位。2015年夏、ドイツにてヨーロッパ国際マスタークラス受講、ディプロマ取得。2016年度明治安田生命クオリティオブライフ文化財団奨励学生。

曲目

バッハ 平均律第2巻第9番ハ長調
ベートーヴェン ピアノソナタ第30番作品109より第1,2楽章
ラヴェル ラ・ヴァルス

10月18日 児玉 真子さん



これまでに第15回ムルハルト国際ピアノ・アカデミー、第3回エミール・ギレリス国際記念祭マスタークラス（共にドイツ）、第38回霧島国際音楽祭マスタークラス等に参加。また岐阜市民芸術祭洋楽部会推薦リサイタルシリーズ vol.5 等に出演。

曲目

ショパン ノクターン第17番ロ長調 op.62-1
リスト バラード第2番 短調
ドビュッシー 喜びの島

11月1日 渡辺 理紗子さん



全日本学生音楽コンクール名古屋大会高校の部本選優秀賞、ピティナピアノコンペティションF級地区本選第1位。ミュージックキャンプブラハ、ウィーン春期音楽セミナーを受講、ディプロマ取得。兼松信子基金奨励金事業より奨励金を得て、リスト音楽院に留学。

曲目

ベートーヴェン ピアノソナタ第8番 ハ短調 op.13「悲愴」
ショパン 舟歌 嬰へ長調 op.60
ドビュッシー 月の光 Claire de Lune

11月15日 寺腰 千紗さん



3歳よりピアノを始める。みえ音楽コンクール 大学生以上一般の部第2位及び岡田文化財団賞受賞 入賞者記念演奏会出演。学内のオーディションによる、ピアノ名曲コンサート・オープンキャンパスコンサートに出演。

曲目

ショパン 即興曲 第3番 変ト長調 Op.51
シマノフスキ 変奏曲 変ロ短調 Op.3

11月29日 近藤 聡美さん



第9回横浜国際音楽コンクール大学の部 審査員特別賞。第2回なごや青少年ピアノコンクール大学・大学院の部 優秀賞。第11回セシリア国際音楽コンクール大学生以上専門の部 4位。ユーリ・スレサレフ、ピョリン・レーマン各氏のマスタークラス等に参加。

曲目

シューマン ピアノソナタ第3番 作品14へ短調

12月13日 福田 真弓さん



横浜国際音楽コンクール大学部門第1位。東京ピアノコンクール大学部門第1位及び準グランプリ。東京芸術センター定期演奏会にてリサイタルを行う。コンチエルトや室内楽にてセントラル愛知交響楽団との共演多数。パリ・エコール・ノルマル音楽院ディプロマ取得。

曲目

ムソルグスキー 展覧会の絵より（抜粋）

開催案内

タイトル	愛知県立芸術大学 学生によるランチタイム・ピアノコンサート ～全6回～
開催	主催：名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンター
日時	2017年（平成29年）10月4日（水）～12月13日（水）までの隔週水曜日、12：30～13：00
演奏者	匂坂実佳、児玉真子、渡辺理紗子、寺腰千紗、近藤聡美、福田真弓
司会	塚田 奈那（名古屋外国語大学 世界教養学科2年）
会場	名称：コミュニケーションプラザ1階「名古屋外国語大学」 所在地：〒470-0197 愛知県日進市岩崎町竹ノ山57
その他	参加無料

1月27日 「村上春樹とカズオ・イシグロ」を開催しました

2018年1月27日（土）13:30～17:30、本学7号館地下1階701教室及びコミュニケーションプラザにおいて、ワールドリベラルアーツセンター主催シンポジウム/コンサート「村上春樹とカズオ・イシグロ その世界性、読解の可能性をめぐって」を開催しました。



開催のご報告

今回のイベントには、189名の方にご参加いただきました。

シンポジウムでは、村上春樹氏と、2017年のノーベル文学賞を受賞したカズオ・イシグロ氏の作品を通して、登壇者4名それぞれの立場からのお話を伺いました。参加いただいた方の中には、村上春樹氏、カズオ・イシグロ氏の小説のファンの方や、登壇された先生方の翻訳を読まれたことのある方も多く、参加者からの質問の場面では、その知識の深さや意識の高さに先生方も驚かされるほどでした。会場を移して開催されたコンサートでは、尾崎有飛先生のピアノ演奏を楽しみました。



シンポジウム（前半・701教室）

シンポジウムの前半では、それぞれの先生方から、順にお話しを伺いました。

鴻巣友季子先生からは「**巨人は深く埋められているか“メッセージ”の沈潜と浮上**」として、主にカズオ・イシグロ氏の作品を通しての考察を伺いました。カズオ・イシグロ氏が、自身の作品の読者がイギリス英語がネイティブとして通じるイギリス人だけではないことを意識している点に注目し、それが“世界文学”に近づく一つの方法とお話されました。



続いて、梅垣昌子先生からは「**カズオ・イシグロの語り**」として、2017年のノーベル賞を受賞した氏の、これまでの作品を通して読み取られる「ルール」の存在について、また『日の名残』を例に作品の中の語りの構造、語られる内容、語る方法などについて、お話いただきました。今後、ノーベル賞作家のカズオ・イシグロがどうなっていくのか、氏の「旅」を見てみたい、同じルールの上から、また別の風光明媚な景色を見せてくれるのか、と次作への期待についてもお話いただきました。



清水良典先生からは「**ハルキ・ムラカミのメタファー通路**」と題し、村上春樹氏とカズオ・イシグロ氏の共通点や相違点を挙げて、それぞれの魅力についてお話いただきました。村上春樹氏の作品が世界で読まれていることについては、現代人の中にコミュニケーションが欠乏しているのではなく、強制されているかのような重圧の中で、自分にだけ届くコミュニケーションを待ち望んでおり、自分に語り掛けているような気持ちにさせるからこそ、世界中の読者の心に届くのではないか、と持論を展開されました。



最後に、亀山郁夫学長からは「**ドストエフスキーの影**」と題して、両氏の作品の設定や登場人物にみる、ドストエフスキーの影響についてお話いただきました。村上氏は、これまでの人生で巡り合ったもっとも重要な本のひとつとしてドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟』を挙げ、イシグロ氏も尊敬する作家としてその名を挙げています。それぞれの作品の中の、ドストエフスキー研究を続けてきた亀山先生ならではの視点で見えてくる共通点や類似点を通して、両氏の作品についてのお話を伺いました。



シンポジウム（後半・701 教室）

休憩後のシンポジウムの後半では、前半の各登壇者の発表を聞いた来場者の方から寄せられた質問にお答えいただきました。

鴻巣先生のお話の中で挙げられていた“世界文学”ということばに関連した“世界文学”全集についての質問に対しては、河出書房新社の『世界文学全集』（池澤夏樹 個人編集）をご紹介いただき、一般的に欧米諸国の作品に偏ることの多い世界文学全集の中でも、アジアやアフリカ諸国の文学も選ばれているなど、全集としてのその特徴や魅力を教えていただきました。



コンサート（コミュニケーションプラザ 1 階）

会場をコミュニケーションプラザ1階に移して開催された尾崎有飛先生のコンサートにも、たくさんの方にご参加いただきました。ピアニストで昭和音楽大学助教の尾崎先生からは、演奏だけでなく楽曲についてご紹介を行っていただき、コンサートの最後には、本イベントの開催日がモーツァルトの誕生日ということで、予定されていなかった楽曲もご披露いただきました。



プロフィール

鴻巣 友季子（こうのす・ゆきこ）

翻訳家。英語圏の現代作家の作品を翻訳、紹介すると同時に、古典文学の新訳にも力を注ぎ、文芸評論も手がける。主訳書：クツェー「恥辱」、ブロンテ「嵐が丘」、ミッチェル「風と共に去りぬ」（全5巻）、ウルフ「灯台へ」、ポー「E・A・ポー」（編訳）。主著書：「カーヴの隅の本棚」、「熟成する物語たち」、「全身翻訳家」。毎日新聞書評委員。新潮新人賞、アガサ・クリスティ賞選考委員。

梅垣 昌子（うめがき・まさこ）

大阪府出身。名古屋外国語大学教授（アメリカ文学）。京都大学博士課程単位取得満期退学。主な論文「フォークナーと11人の語り手たち」（フォークナー11号）「フォークナーの十字架『永遠の戦場』への出兵と帰還」（ALBION57）など、共著『ウィリアム・フォークナーと老いの表象』（松籟社）、『北米の小さな博物館 知の世界遺産』〈1〉〈2〉〈3〉（彩流社）など。

清水 良典（しみず・よしのり）

1954年、奈良県生まれ。立命館大学卒。文芸評論家・愛知淑徳大学教授。第33回群像新人文賞評論部門を受賞。2012年中日文化賞を受賞。主な著書に『2週間で小説を書く!』、『MURAKAMI 龍と春樹の時代』、『あらゆる小説は模倣である。』、『増補版 村上春樹はくせになる』、『デビュー小説論』など。

亀山 郁夫（かめやま・いくお）

1949年、栃木県生まれ。名古屋外国語大学学長。ロシア文学者。2002年に「磔のロシア」で大佛次郎賞、2007年に翻訳「カラマーゾフの兄弟」で毎日出版文化賞特別賞。2012年には「謎解き『悪霊』」で読売文学賞受賞。ドストエフスキーの新訳では他に「罪と罰」「悪霊」がある。2015年、自身初となる小説「新カラマーゾフの兄弟」を刊行。

尾崎 有飛（おざき・ゆうひ）

ハノーファー音楽演劇メディア大学修了、ドイツ国家演奏家資格取得。アリエ・ヴァルディ氏、江口文子氏に師事。国内外の数々のコンクールで受賞。ドイツ、フランス、イタリア、イギリス、オーストリア、スロヴェニア、国内各地で数多くの音楽祭出演やリサイタルを行う。2016年より昭和音楽大学助教。

開催案内

グローバル時代の進行、AIの劇的進化にともない、現代文学のシーンには大きな変化が生まれようとしている。他方、今や世界を代表するともいえる日本生まれの二人の作家、村上春樹とカズオ・イシグロに新たな脚光が当てられている。いずれも、その独自のイメージ世界と卓越した物語構築力によって世界の文学ファンの心を深く揺さぶりつづける作家だが、世界文学の今後の動きを探るうえで一つの大きな指針となると思われる。本シンポジウムでは、よきライバル同士とされる彼ら二人の作品を比較しながら、21世紀の現代世界における読解の可能性を探りたい。

タイトル	村上春樹とカズオ・イシグロ その世界性、読解の可能性をめぐる
開催	主催：名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンター 共催：日本ドストエフスキー協会
日時	2018年1月27日（土） 13:30～17:30（13:00開場）
司会	名称：シンポジウム…701 教室《名古屋外国語大学 7号館地下1階》 コンサート …コミュニケーションプラザ 所在地：〒470-0197 愛知県日進市岩崎町竹ノ山57
その他	参加無料

発行冊子

WLAC Documents



ワールドリベラルアーツセンターでは、講演会や討論会の内容に関連した報告書として WLAC Documents を発行しています。昨年度の No.1 に続き、2017年6月17日に開催した討論会の報告書として「WLAC Documents No.2 トランプ時代の日中関係 第三回 日中大学生討論会」を発行しました。

今回、第三回日中大学生討論会実行委員であり、コーディネーターとして開催に尽力された、川村範行特任教授が中心となり、各登壇者の発言を中心にまとめていただきました。

【目次】

- はじめに
- 「日中大学生討論会」開会の挨拶
- 第一部 両国大学生八人の徹底討論
 - 第一章 討論会のはじめに
 - 第二章 トランプ政権誕生と日中両国への影響
 - 第三章 日中の課題をどう克服するか
 - 第四章 日中両国の交流と協力
- 第二部 識者コメント
 - 質 疑
 - 総 括
 - 閉会挨拶
 - 終わりに 交流パーティーでの声

Artes MUNDI (アルテス・ムンディ)

(※ Artes MUNDI (アルテス・ムンディ) とは、ラテン語で「世界の技芸 (ぎげい)」のことをいいます。)



雑誌 Artes MUNDI (アルテス・ムンディ) は、2015年度に創刊号を発行して以来、今号で第3号となります。今号は今福龍太氏、オリヴィエ・ブルドー氏、サツキ・イナ氏らの特別講演や対談をはじめ多彩な記事を掲載しています。

また、創刊号からシリーズとなっている本学教員の多数が執筆するコラムは、今回「世界 あの曲この音」と題し、各人の経験を通じて記憶に残る曲や演奏など、音楽にまつわる内容となっています。

【目次】

- 特別講演
- 評論
- 講演
- テーマ書評 「世界をもっと知るために」
- コラム 「世界 あの曲この音」
- エッセイ 「教師と学生を結ぶ」
- レポート
- 書評

編 集 後 記

WLAC誕生から3年目に当たる2017年度も多くの方々のご支援を得て様々な活動が活発に繰り広げられました。活動一覧を見るとわかりますように、講演会・シンポジウムを中心に、コンサート、映画上映、写真展示、演劇、対談などが巧みに組み込まれ、企画者の独創性や想像力が一気に発現した様相を呈しています。また、3月近くになると手に取るのが待ち遠しいArtes Mundiも無事刊行されました。活動や雑誌発刊が滞りなく実施されましたことは、ひとえに多くの方々のご協力のたまものであります。この場を借りて関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。

特筆すべきは、講演会・コンサートの「村上春樹とカズオ・イシグロ その世界性、読解の可能性をめぐって」を始めとした幾つかのイベントに大勢の市民が参加されたことです。大学の外に向けた情報発信にも力を入れているWLAC主催者の一人として喜ばしく思います。

文学、文化、社会・政治・経済問題、音楽、演劇といったような多岐にわたる分野の活動を通して、これからも21世紀にふさわしい教養教育の在り方を追求していく所存であります。

(副センター長 佐藤都喜子)

運営者名簿

名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンター

センター長	亀山 郁夫 (学長)
副センター長	佐藤 都喜子 (国際教養学科教授)
〃	野谷 文昭 (世界教養学科教授)
運営補佐	梅垣 昌子 (学長特別補佐・教育改革推進室長)
外国語学部担当幹事	甲斐 清高 (英米語学科准教授)
〃	小山 美沙子 (フランス語学科教授)
現代国際学部担当幹事	佐藤 雄大 (現代英語学科准教授)
〃	鶴本 花織 (国際教養学科准教授)
世界共生学部担当幹事	地田 徹朗 (世界共生学科准教授)

顧問

副学長	高 梨 芳 郎
〃	蔵 田 敏 明
〃	恒 川 孝 司 (常務理事・法人事務局長・名古屋学芸大学副学長)
事務局	太 田 恵 雄 (事務局長)
〃	後 藤 隆 文 (庶務部長)
〃	戸 田 都

名古屋外国語大学 ワールドリベラルアーツセンター

〒470-0197 愛知県日進市岩崎町竹ノ山57
電話：0561-74-1111 (代表) 0561-75-2164 (直通)
Mail: wlac_gg@nufs.ac.jp